

乳がん治療の分子診断 (Oncotype DX、Mamma print)

最近では、再発リスクの評価として分子診断が取り入れられ、すでに2つのツールが商品化されています。

OncotypeDx™ は、21 種の遺伝子(16 種の癌関連遺伝子と5 種の対照遺伝子)の発現プロファイルを用いて解析し、10 年後までの予後予測を行うことが可能で、再発スコアとして結果を表現しています。再発スコアに基づき、化学療法の適応などを検討します。検索対象として推奨されているのは、ステージ Ⅱ または Ⅲ、リンパ節転移陰性、ER 陽性の症例です。

MammaPrint™ は、70 遺伝子をマイクロアレイで解析する方法です。対象は、60 歳以下、ステージ Ⅱ または Ⅲ、リンパ節転移陰性、腫瘍径が 5cm 以下の症例です。遠隔転移のリスクをスコアで表現いたします。